

－耐震強化工事の完成を前にして－

大阪旧真田山陸軍墓地・納骨堂の史跡、文化財へ

－戦争と軍隊、
そして兵士の死を考える－

2025年 2月1日(土)

午後1時30分～午後4時30分

(開場 午後1時15分)

会場：大阪歴史博物館 4階 第1研修室

納骨堂内の骨壺

定員：50名(当日先着順)

参加費：500円(院生・学生100円)

講演

横山篤夫「旧真田山陸軍墓地・納骨堂が語る
兵士の死とその後」

船越幹央「兵士と戦争に近づく視点」

旧真田山陸軍墓地内にある納骨堂は、1943年に建設された。大阪大空襲の機銃掃射にも耐えて現存してきたが、老朽化のため耐震強化工事が行われることになった。2025年2月にその工事が完成し、つづいて仮保管されている骨壺等の復元配置作業も始まる。

時あたかも、日本の敗戦後80年目に当たる年でもある。納骨堂が戦時下に建築されたとき、それは戦没者の慰霊・追悼、さらには国民の戦意高揚を担うものとされた。今、それを過去の戦争と軍隊のありようを記憶、反省し平和への目印となる史跡、文化財として位置付けることは可能か。基本知識を整理しながら、市民のみなさんとともに検討していきたい。

主催：NPO法人 旧真田山陸軍墓地と
その保存を考える会

協力：大阪歴史博物館



墓碑



納骨堂